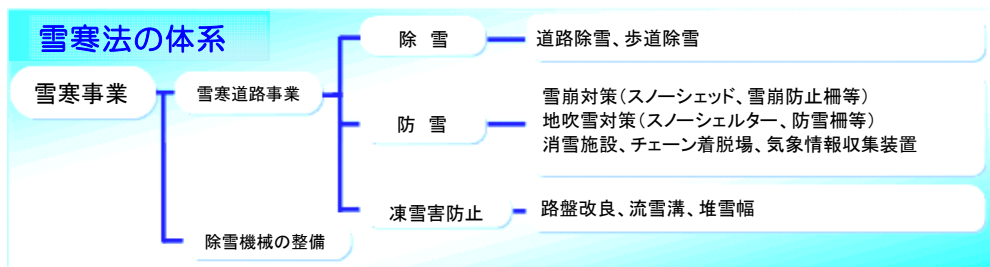


◆豪雪災害対策(雪寒事業)

平成 23 年度の冬も前年度と同様に大雪の年となりました。北海道や日本海沿岸の降雪地域では連日の降雪でその対策に追われる毎日です。豪雪になると交通機関が一時麻痺する所も発生し経済活動の遅滞と共に人命への危険も発生するため十分な対策が必要です。国土交通省では道路交通の確保にどのような対策を進めているのでしょうか。国土交通省のホームページから抜粋して紹介します。

■制度の概要



■雪寒事業の取り組み－除雪事業

- 車道除雪
国道や主要地方道などの幹線道路の機能を確保し、地域間の交流や生活を支えるため、車道の除雪を実施しています。
- 歩道除雪
冬期間の安全で安心できる歩行者空間を確保するため、通学路、鉄道駅周辺等中心市街地、福祉施設周辺等において歩道除雪を推進しています。

■雪寒事業の取り組み－防雪事業

- 雪崩・地吹雪対策
雪崩や地吹雪を防ぐため様々な施設を整備しています。
- 消雪施設
路面上の雪を融かしたり、路面の凍結防止を行います。

■雪寒事業の取り組み－凍雪害防止事業

- 流雪溝の設置
流雪溝の設置により除雪された道路脇の雪を排雪します。



除雪事業
(除雪)



防雪事業
(スノーシェッド)



凍雪害防止事業
(流雪溝)

雪寒対策は安全に係わることであり、怠ることの出来ない事業ではありますが、毎年の事業ですので、いかに効率的に作業を進めるかが必要となってきます。「冬来たりなば春遠からじ」と言います。今は大変ですが時が来ればまた春がやってきます。それまで、事故が起こらないように万全の雪寒対策をお願いします。

□ 交差点における交通事故発生要因の分析と対策工の立案

～交通事故削減をめざしての交差点改良計画～

交差点の安全性向上プロジェクトとして、交通事故等の危険な区間を6箇所を選定し、過去5年間の事故データを基に事故発生状況を分析し事故削減を図るための交差点改良計画を行いました。

以下にその検討結果を紹介します。

■ 事故発生状況図の作成

過去に発生した事故調書は、事故情報だけで、事故の発生状況が不明確でした。そのため、事故状況を再度分析し、事故発生要因を明確にするとともに、その要因に対し効果のある交差点改良計画の立案を行いました。

事故発生状況を把握するため発生位置、進行方向、当事者の分類や、路面状況、事故形態などを記入した事故図を作成しました。また、事故件数を分類別に集計し、発生件数が多い事故形態を明確に示しました。これら事故状況を1枚にまとめた事故発生状況図の例を図1に示します。

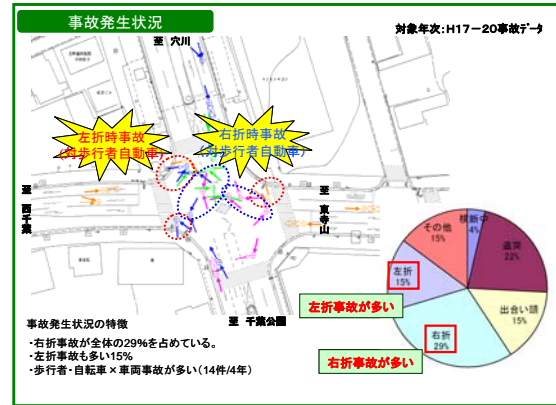


図1：事故発生状況図

■ 交差点改良計画

効果が期待できる理想的な改良計画は、以下の問題があり早期の実施は難しい状況でした。

問題1：歩道の拡幅に伴うなど用地買収が必要。

問題2：街渠の改修や道路照明、標識柱、信号柱、地下埋設物の移設など工費が高い。

問題3：沿道住民の合意が必要で時間を要する。

そのため、大きな効果が期待できる理想的な改良を計画すると共に、開始できるまで効果は限定的であるが即効性があり、早期に実施可能な交差点改良計画も立案し実施することにしました。立案した理想的な改良計画と早期実施可能な改良計画の例を図2に示しました。

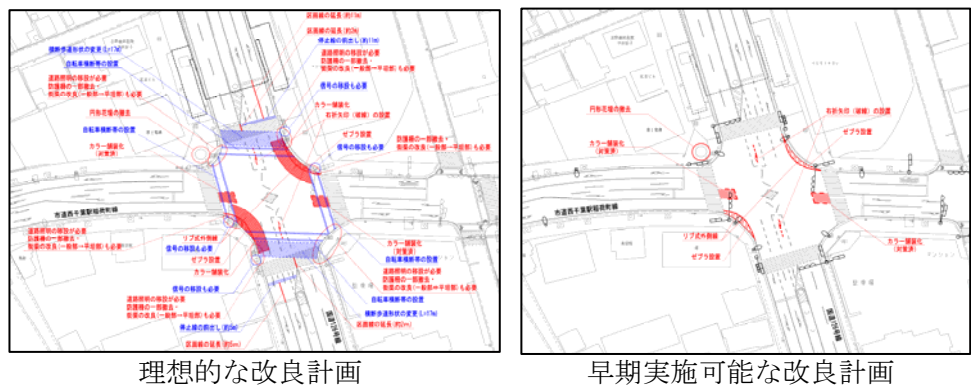


図2：交差点改良計画

■ 改良計画の効果確認

早期に実施が可能な改良計画は、どの程度の効果があるのか不明確であるため、立案した改良計画の事故削減効果を検証するため事後評価表を作成し、継続調査の実施を提案し現在調査中です。